

原生林 ~~群~~

2017 年度 夏山合宿
燕岳・常念岳・蝶ヶ岳



2017. 08. 11～13

横浜山の会

夏合宿 北ア：燕岳-常念岳-蝶ヶ岳

◆日程 2017年8月11日(金)～8月13日(日)

◆メンバー L：須田k、日比野、山中、富田、池本、岡村、曲

リーダー総括

今年の夏合宿は7名が参加して、そのうち4名が新入会員だった。夏合宿は縦走にして多くの新人さんに参加してもらいたかったので、日程を2泊3日にした。ルートは2泊のため通常の表銀座ではなく、中房温泉から入って燕岳～常念岳～蝶ヶ岳と歩いて上高地に下山するコースを取った。

初日のテン場、燕山荘が混雑が予想されたので先発隊を出して早めに到着してテン場を確保しようとしたが、昼頃にはすでにテン場が一杯で、結局小屋に素泊りすることになった。最近の傾向として、登山ブームと少人数用のテントを使用している登山者が多いことなどからテン場がすぐに一杯になってしまう。分かっていたのだが、予想以上で対応しきれなかった。また、上高地に下山したところバスやタクシー乗り場が大混雑で、2時間近く待ってタクシーに乗る羽目になった。今夏の天候不順の中、良天が続いたこともあり観光客が上高地に殺到したため、このような事態に陥ったと考えられる。

長期休暇を取りやすい時期は限られているので日程を変更するのは難しいが、逆コースで中房温泉に下山する、上高地以外のところに下山するなどの配慮が必要だったと思われる。計画段階での検討が足りなかったため、次回からはこの点についての熟慮が必要だ。

一転、山行内容については、好天に恵まれたこともあり予定通りに行動することができた。

体力を消耗する夏の縦走だったが、新人も長時間頑張ってくれて歩き通してくれた。雷鳥に4回も見ることが出来たり、ブロックン現象に遭遇したりと幸運なハプニングが続き、楽しく夏山を満喫することができた。総体的に見ると事故もなく、予定通りに合宿を終えることができて良い合宿だったと思う。これからも今回の反省を活かしながら、多くの会員が参加できるような合宿を計画していきたい。

(CL 須田)

8月11日(金) 天候：晴れ

前日、先発隊として1足早く8/10(木)に松本駅に向かう。ネットで検索すると前日迄満席だった新宿発・松本行バスに空席が出た為、バスで行くことにした。22:00頃山中さんと合流したので、松本駅降りて直ぐの中華料理店で、少し呑むことにした。少しだけ呑む予定だったのだが、途中で期間限定ハイボールが100円であることを知ってしまった。これは飲むしかないとして少し多めに呑んだ。その後、日比野さんも店で合流し、少しして松本駅で就寝。

翌朝、松本駅から穂高駅へ向かい、そこからタクシーに乗って中房温泉へ行く。登山口にはトイレ、水汲み場、ベンチ、テーブルなどあり、そこで少し持参したおにぎり🍙などを食べた。

登山口を7:30頃出発する。急こう配を歩き続ける。天候的には暑過ぎず歩き易い。暫く歩くと合戦小屋に



到着。名物のスイカ（一切れ¥800）を3等分してもらいいただく。塩をかけて食べたら冷たいスイカが甘くて美味しかった。その後、先発隊としての役割であるテント場確保に向けて燕山荘に向けてひたすら歩く。

昼過ぎに燕山荘に到着したのだが残念ながら、既に、テント場は一杯になっていた。先発隊としての役割が果たせなかった。連休と人気ルートということで、朝 5:30 から出発しないとテント場を取れないと思った。燕山荘についてテント撤収する人がいないか眺めながら外で待っていたら眠たくなり昼寝をしてしまった。少し風が出て来て寒くなったのでテントはあきらめて燕山荘に素泊まりすることにして燕山荘の後発隊が到着する迄、さらに昼寝をしていた。

夕方になりそろそろ後発隊到着するところと思い、燕山荘玄関へ行ってみると須田さん率いる後発隊が元気に到着した。まだ元気だったので、後発隊と私は空身で燕岳山頂を目指す。山中さん、日比野さんは過去に登ったことがあるのか燕山荘でゆっくりと過ごすこととなった。燕岳へ行って正解であった。美しい高山植物コマクサ、独特の奇石そしてなかなか見られないブロッケン現象を見ることが出来た。

ブロッケン現象 (Wikipedia より抜粋)
太陽などの光が背後からさしこみ、影の側にある雲粒や霧粒によって光が散乱され、見る人の影の周りに、虹と似た光の輪となって現れる大気光学現象。光輪 (グローリー、英語: glory)、ブロッケンの妖怪 (または怪物、お化け) などともいう。ブロッケン (Brocken) の由来はドイツのハルツ山地の最高峰ブロッケン山 (標高 1,142m) でよく見られたことに由来する欧米ではブロッケン現象で出現する影を妖怪と捉えてブロッケンの妖怪とも称されている (記: 富田)



CT: ①先発隊 (日比野、山中、富田)

中房温泉 8:00～合戦小屋 12:00～燕山荘 13:20

②後発隊 (須田、岡村、池本、曲) 中房温泉 13:00～第1ベンチ 13:30

～富士見ベンチ 15:00～燕山荘 17:00～燕岳～燕山荘 18:30

8月12日(土) 天候:曇り

朝3時半に起き、燕山荘の自炊場で富田さんが持ってきたうどんで満腹にし暖かいコーヒーの後に、4時半に出発。しばらく歩くと、太陽が雲の隙間から顔を出し、雲海、槍ヶ岳山容を楽しみながら、登山。途中ライチョウ家族(4匹か?)と出会い思わず歓声をあげ、8時半頃に大天井に到着。頂上で全員の記念写真を撮影し再び常念小屋のテント場を目指して出発。好天気に恵まれ、ゆっくり風景を楽しんで自然に足を緩めになった。



途中、何組のテント宿達に道を譲り、昨日確保できなかったことが気になって、だんだんテントを張る場所の確保に心配してしまった。11時半頃、すかすかな常念小屋テント場が見えた時は皆ホットした。午後、お茶の時間をまったりと過ごした。

夕飯は、池本さんが用意して頂いた海草サラダ、親子丼、牛とじ丼、ビーフシチュー、メキシコ風チリコンカン、ルーロー飯で、とても豪華で大満足した。（記：曲）

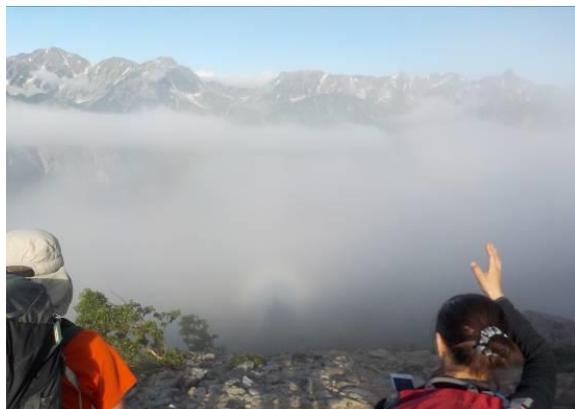
CT：燕山荘 4:30～休 5:20～休 6:35～大天荘 7:50～大天井岳 8:20～休 9:40
～常念小屋 11:30

8月13日(日) 天候：晴れのち曇り

空に星と月、常念岳方向には既に歩き始めた人の光の列が見えた。撤収してその列に加わる。ご来光を見ようと急ぐが、すぐに追いつき、つかえてしまう。しばらくすると前の一団から「雷鳥だ」の声が上がり、写真を撮り始めた。その隙に追い越す。わがパーティは雷鳥については既に満足していた。いいポイントでご来光を仰ぐ。美しかった。



常念岳頂上直下のご来光



ブロッケン現象

常念岳頂上まではきつい登りだ。頂上からの展望は360度大パノラマ。行く手の蝶ヶ岳ヒュッテまで見えた。なお、写真撮影で渋滞し、予想外に時間が掛かった。岩のゴツゴツした稜線を下り始める。左はずっと雲海。右は西岳、槍、南岳、キレット、北穂、涸沢岳、奥穂、前穂がくっきりと見えた。楽しい稜線歩きだ。

ガスが上がってきて、この合宿2度目のブロッケン現象に遭遇。その語源について「ドイツ語だ」「フランス語だ」「ブロックするという意味だ」「ブロック・ケンという人が・・・」等議論しながら歩く（調べたら「Brocken」はドイツのブロッケン山でよく見られたことに由来するようです。）。樹林帯を出たり入ったりしながら進む。常念岳から見た印象よりアップダウンはある。樹林帯の中の方が涼しかった。槍穂連峰は頂上部分だけが雲で隠れていた。

蝶槍はかつては蝶ヶ岳のピークとされていて、たしかに、山中さんの古い地図にはそう記されていた。蝶槍を過ぎる。だだっ広い稜線をザクザク音を立てて進み、横尾への分岐を過ぎ、しばらく行くと蝶ヶ岳山荘に着いた。ここで霧雨に当たるが、下の横尾あたりは日が当たっている。蝶ヶ岳山頂に立つ。平べったい山だ。「ずっと下ってきたら山頂があった」とさえ感じた。

長堀尾根を下り始める。左に妖精の池を過ぎる。ここが尾根なのかわからないような樹林帯で緩やかに下っていく。歩くのに難しい要素は何もない。歩きやすい。ただ、恐ろしく長い。高度を下げるに従って、気温が上がり、クマ笹が増え、ジグザグの急坂となり、唐突に小屋の

屋根が大きく見えて、徳沢園に着く。みんな解放された感じがして、ほっとして、ソフトクリームを食べた。ここで山中さんはもう1泊することとなって、別れた。

上高地で衝撃が走る。バスを待つ人の列がバスターミナルをはみ出していた。とりあえず、タクシー列の最後に数名が並び、あとの者が情報収集をして万策検討した。バスは最終しか整理券が出ず、結局、タクシーが最善だった。1時間半待って乗車。車内で温泉を優先するか、今日中の帰宅を優先するか、その両方を実現できるかを検討。せわ



無事に徳沢園に到着

しないならば温泉は望まない、という声上がり、そのまま最終の1つ前のあずさに乗った。意外にも車内はガラガラで、駅弁をつつきながら楽しく帰れた。（記：岡村）

CT：常念小屋 4:15～常念岳 5:30～休 8:20～蝶ヶ岳 9:15～蝶ヶ岳ヒュッテ 9:50
～蝶ヶ岳 10:20～休 11:40～徳沢 13:30～上高地 16:00

参加者コメント、山中

久々の例会山行に参加しました。昨年の夏合宿の白根三山、金時山以来です。新人さんも参加するとので参加者7名中、初めて会う方が4名もいました。会長はじめ理事、拡大委員会の会活性化の活動の賜物だと思います。逆に私も含め古株メンバーは頑張らなくてはと思いました。体力も日頃のヤマに登るためのトレーニング、生活習慣を意識する事。また重い荷物を担いでの上り下りは年々きつきを実感しました。ゴルフだって練習しなければ良いスコアは出ないのと一緒です。

松本駅のステーションビバークもいつの山行以来か忘れましたが、常宿の記憶です。燕岳は、何度か登っていますが、一番の記憶は昭和57年の夏に松本に仕事で3年間駐在していた時に、お客様の社員研修？を兼ねた山行に同行して、皆は槍ヶ岳までの縦走、自分は燕岳のピストンで登り口の中房温泉に雨の中1人で下りました。車を登山口近くに止めていたのでも濡れで早く温泉に入りたく車に置いておいた着替えを取ろうとしたところ、着替えが無い。車の中の雰囲気も何か違う...? ぎょっ！ 後部座席の窓ガラスが割られており、ダッシュボードが空いていて中に入っていた物が荒らされている。まさに車上荒らしにあってしまった。周辺に止めてあった登山者の車も数台ガラスが割られていた。温泉から警察に電話をしたが、豊科から来るので1時間以上かかってしまう。風呂に入って待つが着替えが盗まれたので濡れたものをまた着て警察を待った・・・そんな記憶がよみがえりました。

私事で横道にそれましたが、今回の夏合宿は、想定外に天候に恵まれ、楽しい山行が出来ました。合戦小屋のスイカも格別で、食事も前例に無いバラティな内容で満足度100%でした。多少残念な事は、テント場確保する為に先発隊を結成したが、燕山荘のテント場が満席で小屋に泊まった事です。その教訓を生かし大天井のテント場はベストな場所を確保しました。行程の燕岳→大天井岳→常念岳→蝶ヶ岳の縦走は、槍ヶ岳を眺めながら容易い印象でしたが今回は年相応に長丁場に感じました。最後2kの徳沢園の下りがきつかった。徳沢園で山中のみ、もう一泊テント泊し、明神池で岩魚を食べ終了と思いきや上高地からのバスが3時間半待ち。結果

5 時半のバスでした。松本で風呂に入って蕎麦を食べて帰る予定が、もう一泊 松本の温泉ラ
ンドに泊まりました。想定内でしたが。 (山中)

参加者コメント、日比野

今年の夏合宿は7名参加の大所帯となった。昨年・今年入会の新人が4名参加し、メンバー構
成もいい。合宿で人数が多いのは嬉しいことだ。今年のコースの蝶ヶ岳・常念岳は多分21年
振りである。あまりに久し振りだったので、前回の記憶がほとんどない。一つ一つの山がどっ
しりと大きく、夏山の縦走路をゆったりと歩いた。今回の山行はスイカ、小屋泊まり、テント
泊、コマクサ、雷鳥、ブロッケン現象、日の出、雲海と盛りだくさんであった。縦走は楽しい。

ここ数年は縦走に行く機会が少なかったが、最近は計画が増えているので嬉しいかぎりであ
る。長距離を歩ける体力を維持しなければ。 (日比野)

食料(担当：富田、池本)

8/11 夜 ハンバーグ、カレーor ハヤシラ
イス、 α 米

8/12 朝 うどん

8/12 夜 親子丼、ビーフシチュー、牛とじ
丼、 α 米、味噌汁、サラダ

8/13 朝 雑炊

食料は美味しいと好評だった。

α 米、うどんなどの量が多かったので次
回からは必要量のみ持参するようにし
たい。

装備

テントはエスペース4~5人用を2張り。
ガスボンベ3個持参したが1.5個使用。

☆零会長より餞別を頂きました。
ありがとうございました！

以上